

◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：社会芸術・寺山支部 炭焼の会

22A-31

代表者：支部長 萩原哲哉

URL : <https://artngo16.wixsite.com>

1. 活動が必要とされた状況

炭小屋の確保は初年度よりの課題。窯温度計測は終日（夜間を含み）滞在となり、雨天時の退避場所が必要であり、用具、機材、資材の収納場所もなかった。建屋の骨組みのみ既存で、屋根、壁、床の最小限の資材の調達でビニールハウス計画を立て施工した（写真）。

窯内は数百度の高温になり、光学温度計でなければ測定不可能。煙突温度と窯内温度の測定は、炭化経過の把握に必需であった（グラフ参照）。

クヌギやケヤキが搬入されたものの、良材の炭材は概して硬い。人力での薪割りは無理がある。人力の数十倍の威力がある 15t 薪割り機は必需であった。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

第1回炭焼 4月26～29日 参加6名 ケヤキ炭 さぎ山窯

炭小屋「萩庵」施工 4月27、28日 参加8名

第2回炭焼 6月29、30日 参加5名 じゃがいも炭 さぎ山窯

第3回炭焼 8月2～4日 参加6名 メタセコイア丸太 さぎ山窯

第4回炭焼 1月15～18日 参加7名 竹炭 さぎ山窯

炭焼き研修会（講演会） 2月22日 講師：岩谷宗彦（炭やきの会
／事務局長） 参加20名 片柳コミュニティセンター（写真）

穀殻収集 3月21日 参加7名 農家

第5回「野良の藝術 2020 さぎ山の田んぼ穀殻燻炭野焼」3月28、29日 さぎ山の田んぼ

予定 *新型コロナウイルス自粛発令のため公開中止。会員内部研修に切替え実施。



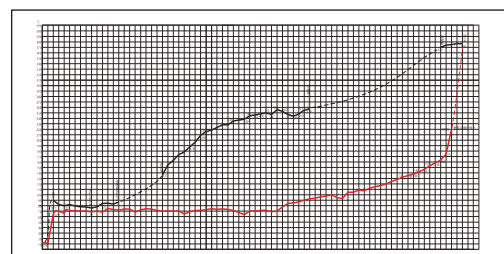
3. 活動の成果

懸案であった炭小屋の設置が、最小限の材料と皆の協働で作り上げた。これで用具や資材の置き場ができ、活動しやすくなった。計測中の夜間・天候対策、軽作業ならばここで可能である。但し、耐用年数は定かでない。

光学温度計の入手で窯内温度計測が可能となり、煙突温度と合わせて炭化の経過が把握できるようになり格段の進歩（参照：右グラフ）。

また、クヌギやケヤキなど固い炭材は、人力の数十倍の威力を持つ 15t 薪割り機に委ねられる。

焼成実験として、数種類の炭材の混在は焼成時間が大幅に違い安定焼成は不可能と確認取れた。



4. 今後に残された課題

- ・野外での公開野焼きの場合、天候を配慮し来客とスタッフの居場所、夜間の物品の管理もあり、テントが必要。日常活動の発表と環境コミュニケーションに重要な事業である。
- ・野焼用に手製の素焼ダクトを制作し、環境コミュニケーションツールとし期待できる。
- ・最後の窯焼き（2/15～18）で空気漏れが起き焼成に失敗。急遽窯の修繕が必要になったが、助成申請後の出来事であり算段がつかず、検討事項となる。（事務局：吉田）